

ハシリドコロ

ナス科 ハシリドコロ属



図 1. ハシリドコロ (東京理科大学 植物園) 2023/04/06 撮影



図 2. ハシリドコロの花 (東京理科大学 植物園) 2022/04/06 撮影



図 3. ロートコン (東京理科大学 学生薬標本室) 2023/05/02 撮影

学名: *Scopolia japonica* Maxim.

基原植物和名: ハシリドコロ (走野老)

産地: 本州・四国・九州の谷あいなどの湿った木陰

薬用部位: 根茎、根 → ロートコン

葉 → ロート葉

主な薬効: ロートコンのエキスであるロートエキス → 消化液分泌抑制作用、鎮痛・鎮痙作用

→ 胃酸過多、胃痛、胃・十二指腸潰瘍に適応

ロートコンから取れるアトロピン → 瞳孔散大作用

→ 眼科治療

用途: 漢方処方としては用いられない。アトロピン点眼薬やアトロピン硫酸塩水和物[Ⓜ]の製造原料

主要成分: ヒオスチアミン (ラセミ体: アトロピン)、スコポラミンなどのトロパンアルカロイド

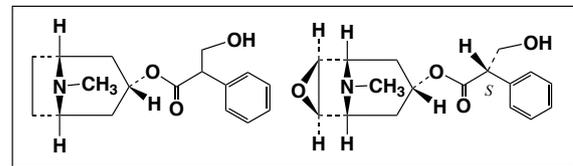


図 4 atropine (左), scopolamine (右)

多年生草本。茎は直立して枝分かれして高さ 30~60 cm 程度になり、花期は 4~5 月で葉腋から 1 個の花を下垂して外面が暗紫色で内面が淡緑紅色のやや五角形の釣り鐘状の花をつける。早春に生える新芽がフキノトウに似ており、まれに誤食による食中毒を起こすことがある。地上部は 7 月頃までに枯れてなくなってしまうので、野生品の採集には注意を要する。江戸時代後期に日本にやってきたシーボルトはロートコンがベラドンナコンと同様に眼科治療の散瞳薬として使用できることに気づき、以来日本ではロートコンをベラドンナコンの代用品として利用されてきた。(ベラドンナコンの項参照)

—参考文献—

山科植物資料館 [ハシリドコロ | 山科植物資料館 \(yamashina-botanical.com\)](http://yamashina-botanical.com)

公益社団法人 東京生薬協会 [ロートコン/新常用和漢薬集 | 公益社団法人東京生薬協会 \(tokyo-shoyaku.com\)](http://tokyo-shoyaku.com)